

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-90C	12-087	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Pre-diagnostic alcohol consumption and breast cancer recurrence and mortality: results from a prospective cohort with a wide range of variation in alcohol intake. 乳がん診断前の飲酒と乳がん再発及び死亡との関連: 多様な飲酒状況を含む前向きコホート研究からの結果		
<b>執筆者</b>		
Holm M, Olsen A, Christensen J, Kroman NT, Bidstrup PE, Johansen C, Overvad K, Tjønneland A.		
<b>掲載誌</b>		
Int J Cancer. 2013 Feb 1;132(3):686-94.		
<b>キーワード</b>		
飲酒、乳がん、再発、死亡		
<b>要旨</b>		
<b>目的:</b> 29,875人の女性を有する前向きコホートを用いて乳がん診断前の飲酒と乳がん再発及び乳がん死亡との関連を検討した。		
<b>方法:</b> 早期乳がんと診断された女性は1,052名。臨床上あるいは生活習慣・社会経済的な既知の危険因子を評価し、多変量解析にて調整因子として用いた。		
<b>結果:</b> 乳がん診断後の追跡(中央値6年)において、乳がん診断前の飲酒と乳がん再発との間に中等度ではあるが有意な関連が確認された。初回調査時の飲酒量においてアルコール1単位(=アルコール換算10g)/日以下の群と比べて、>2単位/日の群のハザード比(HR); 95%信頼区間(95%CI)は1.65; 1.02-2.67であった。また累積飲酒量でみるとアルコール0-10ドリンク・年(1ドリンク・年=アルコール1単位/日×1年間)以下の群と比べて、>40ドリンク・年の群のHRは2.02(95%CI, 1.06-3.85)であった。乳がん死亡の結果は同様に、飲酒量とともにリスク上昇を示唆したが統計的に有意ではなかった。		
<b>結論:</b> 飲酒は乳がんの発症の危険因子であるだけでなく、発症後の予後にも関与していることが示唆された。特定の臨床像(乳がんの亜型、エストロゲン受容体陽性など)とアルコールとの関連は認めなかった。		